

い な づ ま

題字 小 寺 寛 一

発行所	函館地方電気工事協同組合
編集	総 務 部
住所	函館市日乃出町7番22号
印刷所	有限会社 畠山印刷



五稜郭のさくら

就任ご挨拶

理事長

大倉 伸 夫



去る五月二十四日の
総代会に続く役員会で
引続き理事長に再任さ
れ、責任の重大さを痛
感いたしております。
私、昭和五十七年に
発病以来未だ完全復調

出来ず、副理事長はじめ皆様にご迷惑をかけてきたことを誠に申し訳なく思っておりますが、与えられた任期の二年間を誠心誠意頑張りますので、組合員皆様のご協力を重ねてお願い申し上げます。
昨年度、組合賦課金を月額二千円値上げいたしました。組合の事業並に経理の状況はまことに順調に経過し、決算の結果七百万円余の黒字を計上し、利用分量に応じ配当することができ、誠に同慶の到りであります。これらも北電工事工量単価の改訂等が主なる理由であり、北海道電力側の深いご理解に感謝申し上げます。次第であります。

平成五年度に実施した主な事業としては、新電気工事二法による第一種電気工事士の定期講習、第一種ならびに第二種電気工事士、電気工事施工管理技士（第一・二級）等電気工事関連資格取得の対策等を実施いたしました。特に北電の引込線工事士制度については本年四月より完全実施することになったことは、周知のところであります。一事業所二名以上の引込線工事士を保有することと共に、無墜落昇降柱法の訓練を

実施するなど、工事の安全施工にも充分意を払っているところであります。

平成六年度においては、『住宅電気保修センター』も四月より発足し、確実に成果を上げつつあり、今後更に管内全域を対象に実施するよう検討中であります。

又、昨年より行なっております大レクリエーション、恒例の函館港まつりでの『全国電気使用安全月間』のPR、電線首頭踊りなど組合事業に対する青年部の協力は絶大なものでありますが、今後より一層積極的な参加をいただき、後継者の育成に特段の力を入れて参りたいと思っております。

このほか、現在全日電工連として、組合員ならびに従業員の老後を保障するための厚生年金基金および国民年金基金の全員加入を呼び掛けしているところですが、当組合においては未だ半数をこそこの加入状況であり、今後全員加入に向けて一層の努力をする所存であります。

組合員のための事業は積極的に実施して参りますがこれらの事業を推進する核は各支部であります。

核の中心である支部長の下、組合員の自覚を以て夫々の事業に協力を貰えれば、組合ばかりでなく組合員夫々の仕事に大いにプラスになると思うのであります。

平素、何かとご指導いただいております各諸官庁はじめ北海道電力(株)、(財)北海道電気保安協会ほか関係各位の一層のご指導をお願いいたしますと共に、組合員皆様の無事故、ご健康と企業の益々のご繁栄を祈念いたしまして、就任のご挨拶といたします。



役員会だより

第九回役員会

六・三・一七

一、慶弔報告

(1) (有)山崎商会代表者ご令室逝去

二、貸付報告

二社 八〇万円

三、各支部報告並提案事項

各支部それぞれ支部会議兼新年会を開催

四、総務委員会事項

(1) 代表者の変更

(有)松本電気工業

(有)松本信子 (有)松本清彦

(2) 所属支部の変更

(有)電設システム

(有)赤川支部 (有)東支部

(3) 組合脱退の申込みについて

吉本電器商会(高令廃業) 〓承認

(4) 組合新加入申込みについて

道工業組合平成六年度通常総代会について

(5) 永年勤続者表彰式・新年会収支決算について

(6) 渡島支庁による業法立入検査について

(7) 譲渡・譲受による加入申込みについて

(8) (有)木村電設―木村電設〓承認

(9) 組合所有の車の取替えについて

五、技術委員会事項

(1) 計測器類受払業務実績について

(2) 従量電灯乙(ブレーカー契約) 申込書の記入方法について

(3) 引込線工事士の申請について

(4) 三菱重工空調販売技術講習会の開催について

六、事業委員会事項

(1) 共同保守管理業務契約実績について

(2) 厚生年金基金・国民年金基金の加入促進につい

(3) 大同生命団体共済制度の配当金について

第十回役員会

六・三・一五

一、慶弔報告

(1) (有)石垣電気工事店代表者病氣入院見舞

(2) 奥村電気商会代表者病氣入院見舞

(3) (有)厚沢部電気工業代表者ご尊父逝去

二、貸付報告

六社 二八〇万円

三、各支部報告並提案事項

各支部それぞれ会議を開催、赤川・江差支部は総

代を選出した。

四、総務委員会事項

(1) 渡島支庁による電気工事業法の立入検査結果につ

いて

(2) 定期健康診断、献血の実施

(3) 道工業組合の平成六年度通常総代会について

(4) 平成五年版『電気設備工事施工監理指針』の講習会について

(5) 暴走族追放対策について

(6) 委員会分担事項の変更について

(7) 組合新規加入申込みについて

(8) 平成五年度収支決算の試算について

(9) 在函支部以外の支部・ブロックに対する補助金の支出について

(10) 国民年金基金の加入について

五、技術委員会事項

(1) 計測器類受払業務実績について

(2) 無墜落昇降柱法の実施について

(3) 北電引込線工事、計測器工事認定のための従業員名簿の提出について

六、事業委員会事項

(1) 共同保守管理業務契約実績について

(2) 住宅電気保修センターの発足について

第一回役員会

六・四・二五

- 一、慶弔報告 なし
- 二、貸付報告 なし

三、各支部報告並提案事項
各支部それぞれ会議を開催、支部長・総代を選出した。

四、総務委員会事項

- (1) 各支部総代について
- (2) 代表者の変更について

北海道電気工事(株)函館支店
支店長 (御菅野昭雄) (御牧野政雄)

- (3) 平成六年度通常総代会について
- (4) 平成五年度事業報告について
- (5) 平成五年度財産目録、貸借対照表、損益計算書について

- (6) 平成五年度剰余金処分案について
- (7) 平成六年度収支予算案について
- (8) 組合新加入申込みについて

- (9) 国民年金基金の加入拡大について
- (10) 事務局の第二土曜日全体について

- (11) 事業者台帳の作成について

五、技術委員会事項

- (1) 地絡保護装置付閉閉器に係わる負担金等の取扱い一部変更について

- (2) 引込工事取付資材手数料の変更について
- (3) 検漏工事における計器工事工量の改定について
- (4) 北電との懇談会開催について
- (5) 無墜落昇降柱法の実技講習会について

- (6) 北電引込以下工事、計測器工事施工会社の認定について

六、事業委員会事項

- (1) 第三者損害賠償制度に係る事故報告、調査等の徹底について

組合行事

1月6日 御用始め

10日 正副理事長会議

全日 東支部役員会

13日 住宅電気保修センター業務ならびに引込線工事士制度打合会議(於組合会議室)

14日 赤川支部会議兼新年会(於湯の川グラウンドホテル)

21日 道工業組合役員会に大倉理事長、吉田副理事長出席

22日 中渡島支部会議兼新年会(於丸仙旅館)

24日 商工中金懇話会総会に坂本事務局長出席

25日 函館地区団体事務局長役員会に坂本事務局長出席

26日 住宅電気保修センター業務説明会(出席者二八名)

全日 東支部会議兼新年会(於鱈旅館)

28日 永年勤続者表彰式、新年会(詳細別掲)

2月3日 全日電工連総務委員会に大倉理事長出席(於東京都)

全日 いなづま編集会議

7日 北海道電気工事業厚生年金基金役員会に大倉理事長出席(於札幌電協)

14日 労基法改正説明会に坂本事務局長出席(於建設会館)

16日 第一種電気工事士定期講習会(於拓銀ビル) 受講者一七九名

17日 第九回役員会、対北電懇談会

全日 赤川支部会議

18日 東支部会議

22日 全日電工連理事会に大倉理事長出席(於東京都)

全日 引込線工事士認定講習・試験(受講者七十七名、受験者五六名)

23日 北支部会議

24日 道工業組合役員会に大倉理事長、吉田副理事長出席(於道厚生年金会館)

全日 道工業組合通常総代会に大倉理事長ほか理事八名出席(於道厚生年金会館)

全日 暴走族追放推進協議会に坂本事務局長出席(於道警函館方面本部)

25日 道南地域企業セミナーに坂本事務局長出席(ハーバービューホテル)

全日 函館地区団体事務局長研修会に坂本事務局長出席

3月1日 全日電工連理事・事務局長会議に大倉理事長出席(於東京都)

11日 渡島支庁による電気工事業法立入検査

15日 第十回役員会、対北電懇談会

17日 引込線工事士本部認定委員会に大倉理事長出席(於札幌電協)

全日 中渡島支部会議

18日 東支部会議

19日 北支部会議兼懇親会(於ホテル新松)

24日 全道事務局長会議に大倉理事長、坂本事務局長出席(於札幌電協)

4月5日 住宅電気保修センター打合会議

6日 引込線工事士認定再試験

7日 対北電懇談会(北電五名、組合八名)

8日 中央支部会議

9日 青年部総会(於ハーバービューホテル)

全日 八雲支部総会(於今金町)

11日 労働保険年度更新事務取扱

12日 建設省電気設備監理指針講習会(受講者八三名)

- 1413日 定期健康診断(受診者二六五名)
- 18日 正副理事長会議
- 19日 道工業組合役員会に吉田副理事長出席
(於北電札幌支店)
- 全日 自衛隊退職者雇用協議会総会に坂本事務局
長出席(於ホテル法華クラブ)
- 25日 第一回役員会
- 26日 中小企業団体中央会道南支部通常総会に坂
本事務局長出席(於拓銀ビル)
- 27日 全日電工連総務委員会に大倉理事長出席
(於東京都)
- 全日 田中商事(株)函館営業所新社屋落成式に坂本
事務局長出席(於ハーバービューホテル)
- 28日 技術委員会
- 5月6日 組合会計期末監査
- 11日 福島支部無墜落昇降柱法講習会
- 全日 低圧検測工事研修会
- 12日 北海道電気資材卸業協同組合創立四五年・
法人化二〇周年記念式典に吉田副理事長出
席(於札幌市)
- 13日 全日電工連常務理事会に大倉理事長出席
(於東京都)
- 14日 八雲支部北松山ブロック会議
- 全日 八雲支部森ブロック会議兼観桜会
- 16日 金融委員会
- 全日 対北電懇談会
- 17日 赤川支部会議
- 全日 函館港まつり協賛会総会に玉津青年部長出
席(於函館市)
- 19日 八雲支部八雲ブロック無墜落昇降柱法講習
会、ブロック会議兼観桜会
- 20日 北支部会議
- 全日 東支部会議
- 全日 中渡島支部会議

- 5月24日 第二回役員会
- 全日 第四六回通常総代会
- 25日 東支部・中央支部無墜落昇降柱法講習会
- 26日 北支部・赤川支部無墜落昇降柱法講習会
- 28日 全日電工連常務理事会・総会に大倉理事長
出張
- 30日 中渡島支部無墜落昇降柱法講習会



組合員の異動

- Ⅱ代表者・住所・組織の変更Ⅱ
- (新) (旧)
- 一、北海電気工事(株)函館支店(北支部)
支店長 菅野昭雄 支店長 牧野政雄
 - 一、(株)深田電気(中央支部) (旧)深田電気
 - 一、(株)木村電設(東支部) 木村電設
 - 一、新生電業(株)北海道支店函館営業所(中央支部)
所長 工藤 稔 所長 岸本謙一
 - 一、(株)テクセル函館支社(赤川支部)
支店長 土居俊博 支店長代理 小松久孝

組合員の消息

- 一、二月上旬 (旧)石垣電気工事店代表取締役石垣昭雄
殿病氣入院(三月上旬退院)
- 一、二月上旬 奥村電気商会代表者奥村幸男殿病氣入
院(三月上旬退院)
- 一、二月下旬 (旧)岡田電気商会代表取締役岡田忠男殿
病氣入院(四月上旬退院)

- 一、二月一二日 (旧)山崎商会代表取締役山崎繁樹
殿ご令室山崎喜美子殿ご逝去
- 一、三月三日 (旧)厚沢部電気工業代表取締役佐
々木勝美殿ご尊父佐々木鶴松殿
ご逝去
- 一、六月二七日 (旧)中電設工事代表取締役中野芳
美殿ご母堂中野キミエ殿ご逝去

第46回通常総代会

開催される

平成六年度通常総代会が、去る五月二十四日組合館大会議室において開催され、総代定数八十一名中七十四名（うち委任状出席者十名）が出席した。

定刻の午後二時、坂本事務局長の開会宣言に次いで大倉理事長があいさつに立ち

『組合事業は、不況化にもかかわらず北海道電力の工量単価の値上げ、北海道電気工業業工業組合を通じ



た各種事業の助成に加え、組合員賦課金の値上げの他に黒字決算となった」と述べ、組合員の理解と協力により、年度当初の事業計画を無事に実施できたことに感謝の意を表した。

第一号議案

平成五年度事業報告、財産目録、貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分案について承認を求め

坂本事務局長より逐一説明、佐藤監事より会計監査報告がされた後、支出決算額が支出予算額を上廻ったことについての質問が出され、活発な意見交換の末採決に入り賛成過半数により承認された。

第二号議案

平成六年度事業計画案ならびに収支予算案について承認を求め

坂本事務局長より逐一説明の後、機関誌の発行回数についての意見が出され承認された。

第三号議案

理事および監事の任期満了による改選について恒例により各支部一名計八名の選挙管理委員を選出し、選挙により理事十五名、続いて監事三名を選出した。

新任は、理事で佐藤悌史氏（藤電気工事㈱北支部）館脇涉氏（館脇電気工業㈱八雲支部）の二名、監事に伊東研一氏（ユタカ電機㈱東支部）吉田好氏（㈱谷電気工業所八雲支部）の二名であった。

以上第一号議案から第三号議案について審議を終了して可決し午後五時二十分に閉会した。

北海道電気工業業 工業組合通常総代会

開催される

北海道電気工業業工業組合の平成六年度通常総代会が、去る二月二十四日午後二時から札幌市の北海道厚生年金会館で開催され、正副理事長のほか理事五名が出席した。

総代会次第

一、開会

一、理事長挨拶

一、議長選出

一、議事

第一号議案 平成五年度事業報告、財産目録、貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分案の承認について

第二号議案

平成六年度事業計画及び収支予算案の承認について

第三号議案

平成六年度賦課金並びにその徴収方法について

第四号議案

役員報酬について

第五号議案

本日の決議中、その本旨に反せざる字句の訂正を議長に一任の件

一、閉会

なお、総代会開催にさきがけ、永年にわたり組合役員としての功績を認められ上戸理事が北海道電気工業業協同組合連合会島津孝吉会長より表彰された。

新役員紹介



副理事長
西岡大成
昭和十二年十二月生
有限会社西岡電気
代表取締役



副理事長
佐藤征次
昭和十三年九月生
佐藤電気工事株式会社
代表取締役



副理事長
吉田要
昭和三年八月生
函館拓北電業株式会社
代表取締役



理事長
大倉伸夫
昭和三年五月生
大倉電気株式会社
代表取締役



理事(江差支部長)
上戸優
昭和十三年十二月生
株式会社檜山電気工業
代表取締役



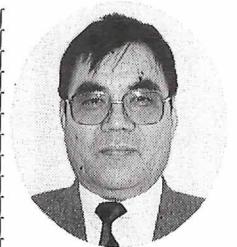
理事(北支部長)
加賀秀雄
昭和六年八月生
加賀電気株式会社
代表取締役



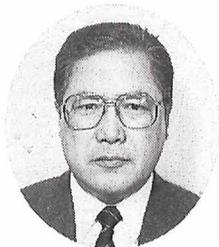
理事(中渡島支部長)
佐々木三男
大正十四年三月生
有限会社
佐々木電気工業所
代表取締役



理事(東支部長)
佐々木請作
昭和五年二月生
佐々木電気商会
代表



理事(中央支部長)
酒井好一
昭和十一年五月生
三立電気株式会社
代表取締役



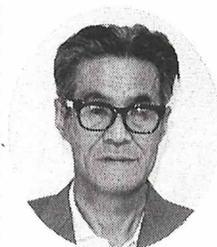
理事
佐藤悌史
昭和十五年十一月生
藤電気工事株式会社
代表取締役



理事
平沼冠三
昭和二十四年九月生
樺電工業株式会社
代表取締役



理事(福島支部長)
繁田一義
昭和十九年十二月生
株式会社繁田電工
代表取締役



理事
鈴木勝弥
昭和八年一月生
光生電気商会
代表



理事(赤川支部長)
大鎌哲雄
昭和二十三年十月生
大鎌電気株式会社
代表取締役



理事 (八雲支部長)

館脇 渉

昭和十九年十月生

館脇電気工業株式会社

代表取締役



監事

林 一夫

昭和二十五年二月生

日興電気株式会社

代表取締役



監事

伊東 研一

昭和二十二年一月生

ユタカ電機株式会社

代表取締役



監事

吉田 好

昭和三十四年十二月生

株式会社谷電気工業所

代表取締役



新加入組合員の紹介

平成六年度新加入の五名の方を
ご紹介いたします。

(加入年月日) 平成六年四月一日



AKI電気工事

秋山 浩

昭和二十年九月二十六日生

函館市桔梗町五九一―九九

電話 四九一―八一六

(前)秋山電気工業所を経て、平成五年十二月独立開業



北興通信(株)

古川 栄一

昭和二十二年八月二日生

函館市湯浜町一〇―二三

電話 五五一―九三三五

川口電気を経て、昭和五十一年一月独立開業、昭和五十七年十月法人化。



(前)東輝電設

小椋 浩輔

昭和二十二年八月十八日生

函館市上野町二〇―一七

電話 五七―七〇〇〇

大興電機(株)、(前)新光照明を経て、平成三年五月独立開業



(前)都市電気工事

若林 俊男

昭和二十五年五月七日生

函館市若松町三八―一四

電話 四三―七六〇九

(前)北海電業、(前)山電気工業、(前)新栄建設を経て、平成五年五月独立開業



(株)進成電機機械工業所

高井 忠昭

昭和十二年一月三日生

函館市東川町二―二

電話 二三―一五五三三

(株)進成電機機械工業所取締役を経て、昭和五十一年十一月代表取締役に就任

永年勤続者表彰式 新年宴会

平成五年度永年勤続者表彰式ならびに平成六年新年会が、一月二十八日ホテル函館ロイヤルにおいて開催され、木戸浦函館市長ほか三十二名の来賓を迎え、被表彰者・組合員・事務局職員約百八十名が出席した。

佐藤事務局次長の司会により、関係物故者に対して黙禱を捧げたあと、あいさつにたった大倉理事長は、『昨年は、北海道南西沖地震による未曾有の災害、冷夏長雨の天候不順による農作物の凶作など、私も道南地域を中心に大変な年であった。全国の電気工事工業組合から多大なお見舞いを頂き皆さんの暖かいご援助に心からお礼を申し上げますとともに、罹災地の日も早い復興を願いながら今後とも出来る限りのご協力を続けていきたい』と述べた。又、永年勤続表彰の受賞者に対して『永年におわたって所属される事業所と電気事業の発展はもとより一般社会に貢献された功績は誠に大きく、心から敬意を表したい。今後とも事業所の発展、後進の指導、業界の発展に一層のご尽力をいただきたい』と述べた。

このあと、勤続三十年以上の浅山直治さん(旬岩越電機商会)ら二十八名(詳細別掲)に大倉理事長から表彰状と記念品が贈られた。

続いて、来賓の木戸浦隆一函館市長と伊藤三雄北海道電力(株)函館支店長のお二人より心あたたまる祝辞を頂戴した。

これにこたえ、勤続三十年以上の茂庭勝則さん(池田電気工事(株))が受賞者を代表して謝辞を述べた。

吉田副理事長の発声で祝杯を上げ、受賞者の労をね

ぎらうとともに出席者の歓談の賑やかな一時を過ごし、午後八時すぎ北海道電気資材卸業協同組合の島谷見函館支部長により、関係者一同の益々の繁栄とご健勝を祈念しての乾杯で無事終宴となった。



平成五年度永年勤続者表彰名簿(敬称略)

勤続 10 年		勤続 15 年		勤続 20 年		勤続 25 年		勤続 30 年	
氏名	事業所名								
石黒 迪生	旬岩越電機商会	宮崎 悦夫	旬岩越電機商会	清水 誠	旬岩越電機商会	奥田 正興	旬岩越電機商会	浅山 直治	旬岩越電機商会
羽立 浩	旬岩越電機商会	山崎 正之	旬岩越電機商会	高倉 勝	旬岩越電機商会	西川 良信	旬岩越電機商会	佐藤 けい子	旬岩越電機商会
田立 利徳	旬岩越電機商会	山口 正之	旬岩越電機商会	東 博	旬岩越電機商会	真山 孝	旬岩越電機商会	茂庭 勝則	旬岩越電機商会
佐藤 満彦	旬岩越電機商会	阿部 弘文	旬岩越電機商会	松崎 徹長	旬岩越電機商会	小川 隆	旬岩越電機商会		
若藤 昭彦	旬岩越電機商会	山田 雅秀	旬岩越電機商会	草階 義晴	旬岩越電機商会	寺田 松代可	旬岩越電機商会		
倉谷 龍幸	旬岩越電機商会			坂本 豊一	旬岩越電機商会				



組合青年部の第十一回通常総会が、去る四月九日の午後六時より函館ハービービューホテルにて開催され、会員四十二名全員（委任状出席者八名）と新入会員三名計四十五名が出席した。

はじめに玉津部長が挨拶に立ち、『昨年平沼部長から引継ぎ、組合事業の第一回レクリエーション、恒例の港まつりへの積極的な協力を含め、青年部の事業実

第11回青年部 通常総会開催

施についてすべて成功裡に終ったことは青年部の力の結集である』と挨拶した。

引き続き議事に入り

第一号議案 平成五年度事業報告及び収支決算報告

第二号議案 同右監査報告

第三号議案 平成六年度事業計画案及び収支予算案

を審議し、いづれも承認可決された。三名の新規会員も入会が承認され、今後の青年部の活性化に大いに役立つものと考えられる。

総会終了後、大倉理事長ならびに吉田・佐藤・酒井三副理事長に出席を願い懇親会に移った。玉津部長の挨拶に次いで今年度満期退会となる大鎌氏（大鎌電気㈱）、小寺氏（日本電機保全㈱）ならびに新入会員三名からも挨拶を貰った。教育大学ダンス同好会によるショーを余興として和気藹々のうちに懇談のひとつきを通し盛会裡に終了した。

新入会員

関村 弘高（㈱シマデン産業）

松本 則之（㈱松本電気工業）

馬淵 孝幸（㈱南電設）



電気設備工事 施工監理指針 （平成五年度版）説明会

開催日 平成六年四月十二日
開催場所 組合大会議室

主 催 (財)公共建築協会(旧・営繕協会)

後 援 建設省、北海道開発局、北海道、函館市

議題および講師

一、改定方針

一、一般共通事項

一、電力設備工事（機械）

一、北海道開発局営繕部設備課 田口課長補佐

一、電力設備工事（施工）

一、受変電設備工事

一、静止型電源設備工事

同上

一、自家発電設備工事

一、通信・情報設備工事

一、中央監視制御設備工事

同上

設備課 山本電気係長

『電気設備工事施工監理指針』は、国・政府関係機関及び地方公共団体をはじめ民間においても広く適用されている建設大臣官庁営繕部監修の電気設備工事共通仕様書の解説書として、工事監理に必要な基礎知識を得るとともに、監理に不可欠な規格・基準などの資料や施工技術を豊富に掲載した工事現場の必携書で、このたび、電気設備工事共通仕様書（平成五年度版）の改定、関連法規やJISその他の規格の改正、最近の施工技術の高度化に対応して改定されたものである。

当日は関係者八十二名が出席し熱心に聴講した。



中国文化のルーツ 日本文化のルーツ (十二)

平沼智子

扇 (おうぎ)

そろそろ夏に向うので、今回は古台から涼を取る道具を取りあげた。扇は長い歴史がある。広辞苑をひらくと中国の団扇（団扇）に対して扇は平安前期（桓武天皇が長岡京から遷都してから約二百年間）ごろに吾が国が創始したと出ている。その最もいい例が雛人形の女雛が持つ『檜扇（ヒノウギ）』であろう。

扇には竹で作ったもの、羽で作ったもの、絹張り、紙、折りたたみ、更に大きささまざまなものがある。古くはあおいで涼を取るだけでなく、貴族の儀仗としても使用された。後に名士雅人は扇面に詩を詠み、繪を画いて芸術品として所蔵するようになった。芸術画扇には一ニメートルほどの大きなものもある。昔は若い男女が小さな扇子を使ってお互の感情を伝えあつたといわれているが、扇の源流は一つの文化史である。

扇の起源として、酷暑の季節に植物の葉や鳥の羽などを加工して、時として日除けに或いは涼をとる道具として使用されたと推測出来るが、それは考証がむずかしいほど古い時代にさかのぼることが出来る。その一つが『宮扇』（宮庭で使用された扇）で四千年余の歴史がある。日除けに使用されたことから『障日』とも呼ばれている。

最古の宮扇は『舜』（中国古代説話の五帝の一人）

の作った『五明扇』だと伝えられているが、なぜ『五明』という名称になったのかという事について、次のような伝説がある。

舜は即位すると『視聽を広め賢を求めて自らを輔ける』ことを示すために、五明扇を作ったという。『史記』によれば舜は目が二つづつあった。目が四つあるなどと言うことは化物で、私の考えでは人並すぐれた大きな目ではなかったかと想像する。四つの目『四明』に賢を得て目を添えたという意味で、五明と称したと出ている。

『五明扇』とはどのような形をしていたのであろうか。史書には説明がないが、後世の帝王の使用した『宮扇』『朝扇』など義仗用の扇から推測すれば、長い柄のついた大扇で対称、円形、彩絹を張って真中に雲紋を描き、侍者に持たせて王者の威儀を示した。『五明扇』は夏の時代に舜の禪讓（中国の帝位をその子でなく有能な人にゆずること）を受けた禹が簡素を唱えたのでその使用が禁止されたと言われているが、商代になると殷の王、武丁はまた使用を開始した。雉の尾羽で作ったもので『雉尾扇』と称した。周の武王も『雉尾扇』を使用した。この雉尾大扇は秦・漢・魏・晋と並び大扇を意味した。この雉尾大扇は秦・漢・魏・晋と衰えることなく代々使用された。南北朝の頃は羽で作った宮扇であったが五明扇とは呼ばなかった。

梁の元帝に『妾弄一弦琴・妻播五明扇』という詩が

あり、これから察して五明扇はもう大扇でなく、妻が手にゆらゆらさせる精巧な小扇になっていたと思われる。しかし、雉尾宮扇は依然として皇帝や皇后の供をし、その威儀を保った。盛唐のころ使った宮扇は孔雀の尾羽で作られ、『鳳尾扇』と呼ばれていた。唐代の『皇后行幸図』という古画に、鳳尾扇を手にした宮女が描かれている。劉禹錫はこのような詩を詠んだ。

鳳翼擁銘旌
威遲異告行

皇帝と皇后は銘旌（銘旗）など多くの儀仗に取り囲まれて行幸する。鳳尾大扇が高くあがるとそれは出御の宣告だ

この事から儀仗の中における宮扇の地位と働きを知ることが出来る。

先秦のころ、あおぐ為の小扇は門と言う字をたて割りにしたような形で扇面は長方形をなし、一方に柄がついていたところから『偏扇』とも呼ばれた。湖北省江陵で発見された楚國の古扇は、柄は竹ひごで編んだ短かい竹扇である。これによく似た偏扇は、漢代の画像石の中にも見かけられる。

偏扇は唐代には宮中で使用されていた扇の一種で、現在でも『新疆』などでも使用されている。これは左右に動かしてあおぐのではなく、両手で柄をはさみクルクル回して使用する。漢代には偏扇がかなり流行したが、同時に新形の扇が現われた。則ち『団扇』である。粗らい絹を使用した『羅扇』もあればねり絹を使用した『紵扇』もあつた。おそらく前漢の成帝のころに始まったものであろう。成帝の女官『班婕妤』の詩『怨歌行』の中に

新裂齊紈素

新しく買った新紈素（山東の絹

鮮潔如霜雪

）は雪のように白い。それで作

裁為合歡扇

った合歡扇は円く明月のようだ

团团似明月

この詩句から『紈扇』『团扇』は『合歡扇』とも呼ばれ、満月の形をした团扇は柄が真中であって左右対称一家団らん、夫婦相和すようだと、宮女たちの情意がこめられていたのだから。

合歡扇は漢に始まり、魏・晋に流行し衰えることなく中国の伝統的な扇形の一つになっている。始めは白色を貴び扇面に飾り施さなかつたが、唐・宋の团扇は大い詩画をもって飾りとしていた。

千年以上の間、生活用品としてだけでなく鑑賞価値のある芸術品ともなり、とりわけ女性に愛され、唐・宋・元・明・清と歴代の仕女図(美人を題材とする中国画)には、必ずと言っていい程うす絹張りの小扇を手にした女性が描かれている。

中国では『諸葛亮(字は孔明)』といえはすぐ『羽毛扇』を連想する。諸葛亮は知恵の化身とみなされ、したがって『羽毛扇を振るう者』というのは、知恵者或いは策士の代名詞となつた程である。

羽扇は三国時代(二二〇年―二八〇年)すでに流行していたのだろうか。

宋の文学者『蘇軾』はその著『念奴嬌・赤壁懷』の中で、呉の名将『周瑜』に触れて『羽扇綸巾、談笑間強虜飛煙滅』といっている。これは羽扇を持ち綸巾(青い絹の組ひもで作った頭巾)をかぶつた周瑜が談笑しているうちに、強敵は全滅されたという意味である。周瑜は三国時代のもう一人の『羽毛扇を振るう者』であつたと言ふ事である。

しかし、現代の考証によれば、羽扇が使用され始めたのは三国以降、西晋のころで、諸葛亮、周瑜の死後相当の年月が経っている。諸葛亮が手にしたのは羽毛扇ではなく、一種の『毛扇』つまり『塵尾』だといふ。『塵』はオオシカの一種で尾が比較的長い。古人はその尾を柄にはさんで扨(チヌ)をつくり、それを使用した。その形は扇に似てほこりを払い、風をおこして暑気を払う。それで『塵尾扇』と呼ばれていた。塵尾を手にして清談することは、魏・晋の名士にとっては風流雅

趣の一つであつた。

南京で『竹林の七賢人』を描いた南朝の『画像碑』が出土した。その画面に名士の『阮籍』が手にしているのが塵尾で、それが一つの証拠となっている。古文物の中で塵尾を手にした諸葛亮の姿はまだ発見されていないが、文献の記録によれば諸葛亮は塵尾をもって戦場で三軍を指揮した。司馬懿はそれを知ると『さす名士!!』と賛嘆してやまなかつたとの事である。諸葛亮が軍の指揮に使用したのは羽扇ではなかつたが戦の時は羽扇が使用されたのはたしかのようである。

東晋のはじめ老將軍の顧榮は、河を渡ろうとしていた反乱軍を、羽扇を一振りしてたちまちのうちに敗走させた。それから二百年後、梁の文帝は顧榮をしのんで

終無顧庶子 誰為一揮軍

ついに顧榮の如き人物は出ない。誰が軍隊を指揮出来るのかと言つたといはれている。

折扇は、折たみ扇(現在の日本の様式)、聚頭扇、蝙蝠扇、あるいは撒扇とも呼ばれているが、果して何時ごろから使用したのだろうか。

南北朝のころすであつたとの説がある。その根拠となつたものは『南齊書』で『司徒褚淵は入朝のとき腰扇で日をよける』とあり、腰扇とは宋の人で『胡三省』の注釈した『資治通鑑』に腰扇とは折りたみ扇のこと』と出ている。

ところが、清の人で『趙翼』の考証では、腰扇は折たみ扇でなく中ほどがやや細かつた团扇だといふのである。とすれば南齊に折扇があつたといふ説は確証がなく、唐代に折扇があつたといふことも定論とはならなくなる。

しかし、北宋のころすでに折扇があつたといふ説は確かな史書の記録がある。蘇軾、蘇轍の兄弟がそれぞれ、詩に残した。蘇軾は

高麗白松扇 高麗の『白松扇』は広げると展之広尺余 尺余の広さ、閉じるとわずか合之止兩指許 二本の指のようだ

という意味である。白松扇とは、水柳の皮でつくつたもので、白松の木によく似ているところからその名がつけられた、蘇轍は

扇從日本來 扇は日本から来たものだが風風非日本風 風非日本風は日本の風ではない。日本の但執日本扇 扇子を手にとると風が尽きる風來自無窮 ことがない。

という意味である。ここでいうのが折扇、すなわち折たみ扇のことであるが、兄の蘇軾のいう折扇は高麗の扇である。弟は日本から来たというがさてどちらが正しいのだろうか、折扇は日本であつて朝鮮に伝わつたのか。それとも逆に朝鮮であつて中国より先に日本に伝わつたのだろうか。

『宋史・日本伝』に日本の高僧『奝然』は中国を訪ねた際、特別の厚いもてなしを受けた。帰国後、答礼のために弟子を中国に遣わした。その時の贈り物の中に『扇一かご』『檜扇二十本』『蝙蝠二本』とある。

この檜扇は多分檜のうす皮で作つた折扇であり、蝙蝠扇は折たみ扇であろうと思われる。日本の折扇、つまり扇子の発明は蝙蝠(かわほりは)こもりりの古代の呼び名、こもりりの羽をひろげた形から名づけられた。こもり傘も同じである)からのヒントである。

奝然の贈つた折扇は中国で見られる折扇の最も古い記録である。それは端拱元年(九八八)のことで今から丁度一千年の昔である。高麗の白松扇についてはそれより七―八十年後の事である。おそらく高麗の白松扇も日本から伝わつたものであらうと伯南氏はいふ。宋の人郭若虚の書いた『図画見聞志』には『朝鮮の

使者は中国に来るたびに折たたみ扇を贈り物とする。その扇は濃緑色の紙でつくったもので大変美しい。これは倭扇ヤマトアヒといい、もともと倭国から出たものだ」とある。

折たたみが中国で現れたのは宋代であるが、大量に作られるようになったのは明代である。記載によれば『明の初め朝鮮から撒扇が入って来た。明の成祖はそんな開閉の便利さをよろこび工部に命じてその通りに作らせた、その命令は宮廷からたちまち天下に及んだ。それ以来、折たたみ扇は広く流行して今日に至っている。これは、永楽年間、いまから五百七十八年前のことである。

数百年来、折扇は中国では工芸家がその技芸を発揮し、文人・画家が詩を詠み絵を描く芸術の対象であるだけでなく、舞台芸術家の感情表現の道具として舞台上で盛んに使用された。小説『紅樓夢』の中で『宝釵が扇子で蝶をとらえ、晴雯が扇子を引き裂くくだりはいづれもすばらしい描写です。扇子をうまく使って宝釵の機敏さ、晴雯の激しい性格を生き生きと描き出している。

折扇は中国の文化を豊かにし、科学をも豊かにした。幾何学の中に『扇形』という言葉がある。定義を言えば『一つの円弧とその両端に引いた半径とで囲まれた図形』（広辞苑）ややこしいが要は扇の地形の形である。『扇形』という言葉は明の人・徐光啓が『幾何原本』を翻訳するとき、折扇の形からヒントを得て『扇形』と訳した。その後日本にもこの扇形の言葉が伝わる。このひと事からしても扇の文化における日中両国の密接な関係を知ることが出来る。



無墜落昇降柱法 講習会実施

昨年度『引込線工事士』制度が制定され、講習又は学科試験によって全道的に新らたに九八〇〇人の引込線工事士が誕生した。これを機に永年の懸案であった『無墜落昇降柱法』を徹底させて、柱上作業時における墜落事故の絶滅を期して昨秋に引き続きこの度、講習会が実施された。外線工事関連各社は既に徹底しているものゝ一般内線工事の組合員は補助ロープを使用しない従来型の昇降柱法で作業をしているのが実情であった。幸い昇降柱に関連する重大事故は発生していないが『転ばぬ先の杖』で今回の講習会の開催となった次第である。

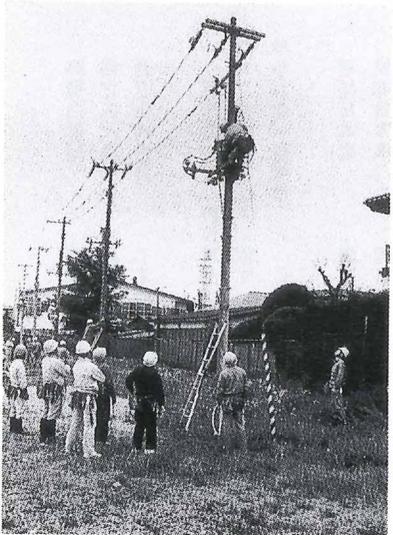
去る五月二五・二六の両日北電旧資材管理所に於いて



で東・中央・北・赤川・中渡島の各支部毎に行われた。両日は業務多忙にもかかわらず、北電配電課より七・八名の講師の巡遣をいたゞいて午前・午後の部に分かれ、模擬電柱を利用して熱心な講習が行われた。出席支部は東・中央・北・赤川・中渡島の各支部で延べ九十九社一六二名が受講した。

この昇降柱法は補助ロープを順次固定し乍ら又は、胴綱を廻したまゝ昇降柱を行う方法で、近年北電柱に装架される電線ケーブルその他が増えている現状で、この新しい昇降柱法を是非確立して墜落事故の絶無に期待をかけている。前述の支部のほか、八雲支部（八雲ブロック）八社一五名、福島支部十三社二十三名は五月十一日と五月十八日にそれぞれの北電営業所の指導を得て行われた。

この講習会はまた秋頃に実施して組合員関係者全員の受講を期待している。北電のご協力に対し厚くお礼を申し上げます。



北海道電力(株)函館支店組織図

平成 6 年 8 月 1 日

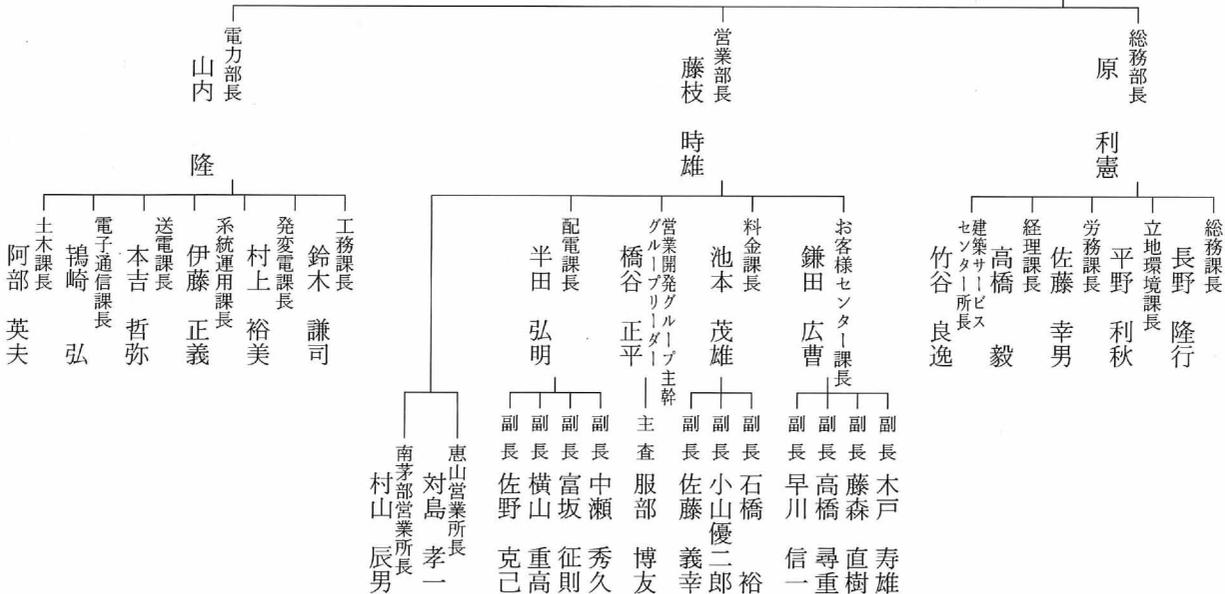


副支店長
石原 聡

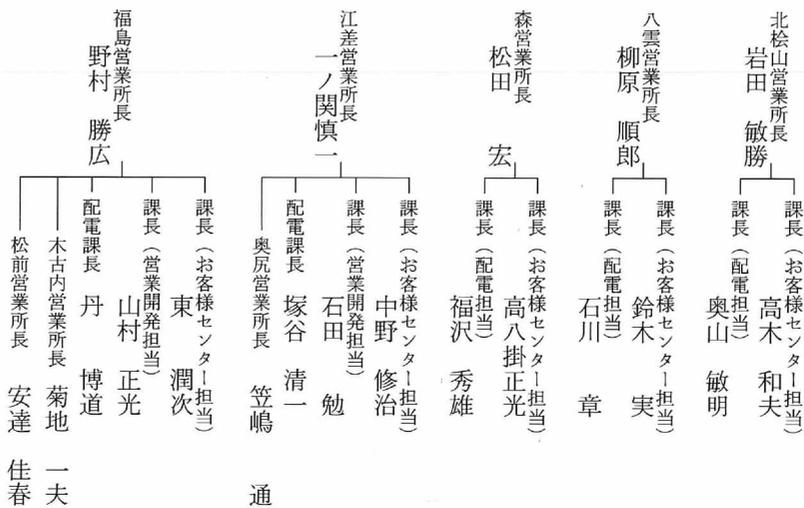


支店長
伊藤 三雄

支店長スタッフ
主幹 谷 澄人
主査 南 育彰



営業所



注IIお客様センター課長鎌田広曹氏は本店営業部営業システムグループに転出され、当分の間藤枝営業部長が兼任とのことです。

